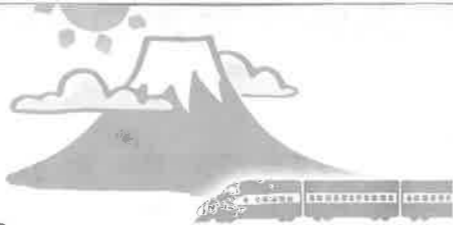




ちょっと憩いませうか。

江口裕之の

日本のことをい伝えよう 第5回



今回は、日本の行事・慣行についてです。日本独特の行事やその捉え方の根源を探りましょう。

今回のお題
行事・慣行

1. Why do the Japanese call the New Year "new spring"?

According to the old calendar, which defines the four seasons astronomically, spring starts around February 4th on the new calendar. Because the old New Year was celebrated on the day of the new moon closest to this day, it was equal to the arrival of spring. Although the New Year is now celebrated on January 1, the custom of mentioning spring at New Year remains.

2. Why are weddings held on specific days?

Weddings are often held on a lucky day called *taian*, one of the recurring sequences of six days called *rokuyo*. *Rokuyo* originated in China and has long been used in Japan as a way to tell the day's fortune. Although it is superstitious in nature, many Japanese are influenced by it. In fact, wedding halls are very crowded on *taian*, but on *butsumetsu*, the most unlucky day among the *rokuyo*, couples are likely to be offered discounts.

3. Why are the celebrations for Christmas and Valentine's Day so popular in Japan — a largely non-Christian country?

Traditional gift-giving practices in Japan are seen as a social obligation designed to return a favor to the giver's supporters. After World War II, with a greater number of nuclear families and increased individual freedom concerning romance and marriage, Christmas and Valentine's Day fitted very well with the Japanese need for opportunities to exchange gifts among family members and couples. Today, they are regarded as integral annual events for most Japanese.

4. Why do the Japanese have cherry-blossom viewing parties?

Cherry blossoms, which reach full bloom almost in unison, clearly mark the arrival of spring, an auspicious season when new life begins. People want to add festivity to its arrival. Also, cherry blossoms are beautiful but only bloom for a particularly short period, which makes the Japanese feel the transience of life, an important aspect of the Japanese sense of aesthetics. To appreciate such beauty, people like to have cherry-blossom viewing parties.

1. 日本人はどうして新年を「新春」と呼ぶの？

新年には年賀状や特別番組で「新春」「賀春」など「春」という言葉を使います。日本に現在の暦（グレゴリオ暦）が導入されたのは1873年です。それ以前は、旧暦（太陰太陽暦）が用いられていました。旧暦は天文学的な暦で、1年の長さは太陽の動き（地球の公転周期）、1カ月の長さは月の満ち欠けに基づき、月の始まりを新月（朔）の日、15日を満月の日とします。地球から見た太陽が天空上に描く軌道を黄道と言いますが、年中行事は黄道を24分割した24節季に基づいて行われていました。旧暦上の春の始まりは立春で、新暦上では2月4日あたりになります。ちなみに、立春の前日を節分（本来、節分は年に4回あります）と呼び、豆まきの行事が行われます。旧暦における正月は立春に最も近い新月に行われていたため、正月は春の始まりでもあったわけです。新暦の導入後も、古来使われてきた旧暦の風習は至る所に残り続けましたが、「新春」という呼称もその一つなのです。

3. キリスト教信者が少ない日本でクリスマスやバレンタインデーのお祝いが盛んなのはなぜ？

政府刊行の宗教年鑑によるとキリスト教の信徒数は、日本在住の外国人を含め約277万人（平成23年）に過ぎませんが、その割にはキリスト教関連のお祝いが日本で盛んであることを不思議に思う外国人は多いようです。ここでは、日本人の宗教心について議論するより、これらのお祝いが日本文化で果たす役割について考えてみましょう。日本文化では古来、贈答習慣が重要な役割を果たしてきましたが、そのほとんどは、お世話になっている人の日ごろの恩顧にお返しをするという社会的な義理を果たすのが目的です。第二次世界大戦後、核家族が増え、また、恋愛や結婚に関する個人の自由が認められるようになると、家族間で、またはカップルの間で個人的な贈り物をしたいというニーズが高まりました。クリスマスやバレンタインデーはそのような日本人のニーズにぴったりはまったのでしょう。今日、これらのお祝いは日本人にとって欠かせることのできない行事となっています。



著者プロフィール

江口裕之 CEL 英語ソリューションズ 最高教育責任者

1957年長崎県生まれ。国立北九州高専化学工学科卒業後、プロのミュージシャンとして全国で演奏活動を展開後、通訳・翻訳家に転身。1989年から一貫して通訳案内士の育成に携わる。2001年、東京にCEL 英語ソリューションズを設立。2009年よりNHK Eテレ英語教育番組「トラッドジャパン」講師。著書に『新・英語で語る日本事情』(The Japan Times)ほか多数。音楽 CD に『My Good Ol' Songs』(アソルハーモニクス/RADIO DAYS)。

2. 結婚式はどうして特定の日に行われるの？

結婚式などの大切な行事はよく大安に行われます。大安は中国発祥の六曜という連続する6日の1つですが、日本で独自の意味合いが添えられ、古来、吉凶の占いに用いられてきました。明治時代、新暦の導入とともに政府は占いの類いの情報を暦から排除しましたが、なぜか六曜が残ってしまい、逆に政府公認と思われて信憑性が高まったそうです。旧暦の六曜は規則性があり、各月は、1月・7月が先勝、2月・8月が友引、3月・9月が先負、4月・10月が仏滅、5月・11月が大安、6月・2月が赤口から始まります。これをそのまま新暦に移すと月半ばで飛び日が生じることがあり、その不規則性がさらに六曜の神秘性を増したともいわれます。六曜はこのように迷信的な要素も大きいのですが、それでも結婚式は大安に集中、逆に仏滅には式場のディスカウントと、市場規模1兆円以上とされるブライダルビジネスを左右しているところはいかにも日本文化らしいといえます。

4. 日本人はどうして花見の宴を開くの？

日本は四季の変化に富んでおり、夏冬の寒暖差が大きいのが気候上の特徴です。そのため、冬の厳しさを乗り越えた後の春の訪れは人々に大きな喜びをもたらします。神道の根底を流れるアニミズムの考えでは、全ての生命は消滅と再生を繰り返します。それは一生のことだけでなく、四季の移り変わりとともに、全ての不浄が消滅し、精気が蘇るという概念を生み出しました。春はその精気が形となって現れる季節なのです。その春の訪れを知らせるのが一斉に咲き乱れる桜であり、花見の宴はその喜びをみんなで分かち合う儀式と言えます。もう一つ触れておきたいのは日本人の無常観です。桜の花はとても美しいのにすぐに散ってしまいます。このことが日本人の最も重要な美意識の一つである「ものの哀れ」を感じさせるのです。この意識は平安時代に貴族の間に生まれ、後世、広く日本人に共有されるようになりました。花見はその美意識を味わう機会ともいえます。

いかがでしたか。昔から伝わる日本の風習など、海外の方々に伝えていきたいですね。今回は「神社」について取り上げます。

Words and Phrases

1. the old calendar (the lunisolar calendar): 旧暦(太陰太陽暦)
astronomically: 天文学的に
the new calendar (the Gregorian calendar): 新暦(グレゴリオ暦)
the new moon: 新月、朔

2. recur: 循環する
sequence: 連続するもの
tell fortune: 吉凶を占う
superstitious: 迷信的な

3. social obligation: 義理
return a favor: お返しをする
integral: 不可欠の

4. in unison: 一斉に
festivity: にぎわい、お祭り騒ぎ
transience of life: 無常観、ものの哀れ
sense of aesthetics: 美的感覚